



日中国交正常化50周年記念事業 在中国実行委員会の設立について

2021年12月15日

中国日本商会企画委員会委員長

一般財団法人日中経済協会北京事務所所長

川合 現



これまでの経緯

2021年4月 日中国交正常化50周年記念事業準備委員会の設立

9月 準備委員会報告書の公表

【基本テーマ】未来へ向けて協創しよう；戮力同心，協創未来！

9月～10月 記念ロゴマークのデザイン公募

11月 記念ロゴマークの決定・使用申請受付の開始

11月 理事会（電子メール）において、日中国交正常化50周年記念事業在中国実行委員会を設立することを決定

12月10日 垂秀夫大使に名誉会長就任を依頼

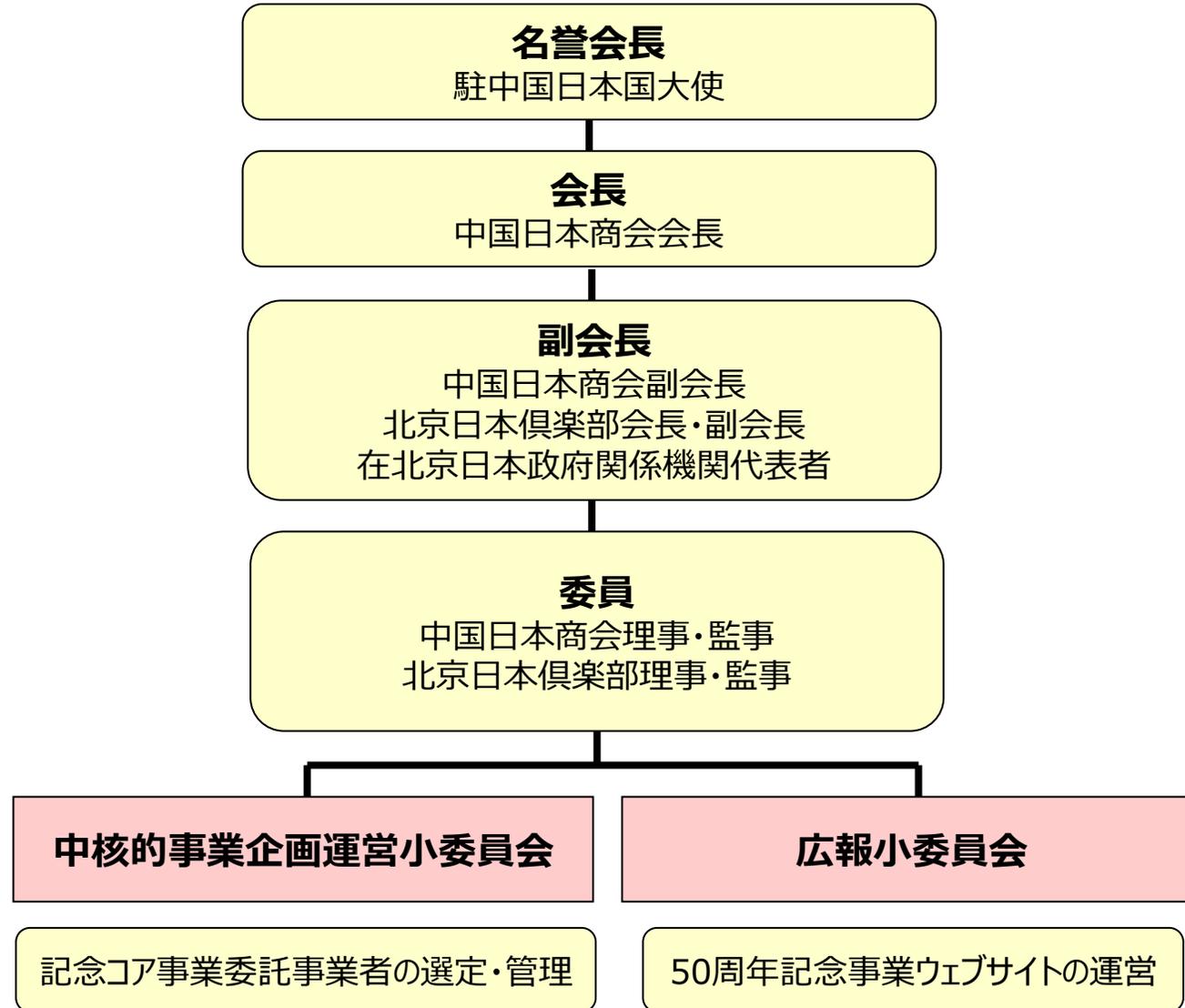


在中国実行委員会設立の必要性

- 40周年の際のように日本において経団連が中心となって寄附金を募集し、中国において記念事業を実施する見込みがない。
- 北京において市民向けの50周年記念コア事業を実施することが必要。
- 北京コア事業を実施するためには、寄附金の募集が必要。
(ただし、中国日本商会の繰越金の流用のみにより対応できる可能性も現時点では排除されない。)
- 中国各地において日本商工クラブ・日本人会、日系企業等が主体となって50周年記念事業が行われると見込まれるところ、これらを緩く統合し、総合的に情報発信を行うことが効果的。



在中国実行委員会の組織・構成員





今後の予定

- 50周年記念事業ウェブサイトの立ち上げ（来年2月頃）
- 50周年記念コア事業に係る企画公募の実施（来年1月～2月頃）
- 寄附金募集の可否、規模等に係る意思決定（来年2月～3月頃）
- 周秉徳氏講演会の開催（来年4月）

- 「50」と「1972-2022」の数字の結合が基本テーマを表します。開放的な形は未来に向かうという意味を表しています。
- 両国のシンボルである万里の長城と富士山が寄り添い相互に調和したデザインは、日中両国が一衣帯水の隣国であり、またお互いに切っても切れない関係にあることを示しています。
- バランスをとった構図で文字を対照的に配置し、日中関係が平等で良好であり続けることを示しています。

(デザイナー肖忠橋氏による解説より)



御清聴ありがとうございました。